



どうすればよいの?

**外国にルーツをもつ子どもたちの  
サポート体制づくり**

**～ 受入れから、進路保障まで ～**

## 目 次

### はじめに

1. 外国にルーツをもつ子どもたちの受入れ手順 —初登校日までに何をすればよいのか—	2
2. 子どもの現状を把握するツール	
(1) 母国での生活経験や学習経験を知る「個人カード」	11
(2) 日本語の力を見取る「日本語の力見取り表」	16
3. 子どもたちのつまずきを基にした授業づくり	
(1) 子どもたちがつまずく五つの要因	17
(2) 単元や授業でのつまずきを予想する	18
(3) 具体的な支援	20
4. 全校で支援するサポート体制づくり —全ての授業で支援を採り入れるために—	
(1) 個人で支援を考える「サポートシート①」	23
(2) 支援を共有する「サポートシート②」	25
(3) 受入れ体制別の「サポートシート活用年間計画例」	27
5. 人権教育学習指導案「外国の学校へ行こう！」 —あたたかく受け入れ、互いに認め合う学級づくりをめざして—	30
6. 外国にルーツをもつ子どもたちの進路保障について	33
7. 外国にルーツをもつ子どもたちの教育 Q&A	36
8. 外国にルーツをもつ子どもたちの教育に関する情報を得たいとき	38
※資料 「日本語の力見取り表」	40

## はじめに

外国にルーツをもつ子どもを受け入れる… どうすればよいの？

平成 22 年 9 月 1 日現在、日本の公立学校に在籍する外国人児童生徒は約 8 万人、その中で日本語指導が必要な児童生徒は約 2 万 8 千人です。更に、日本国籍を有する、日本語指導が必要な児童生徒も約 5 千人います。そして、「これらの児童生徒に対して、日本語指導や日本の学校への適応指導などの体制を整備し、『入りやすい公立学校』の実現を図ることは、重要な課題」※1と認識されています。これを受けて、文部科学省では、「日本語指導が必要な児童生徒の教育の充実のための検討会（平成 22 年 11 月 1 日初等中等教育局長決定）」が設置され、日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方や、教育の充実を図るための方策等についての検討がなされています。

このように、日本語指導が必要な子どもたちの教育は喫緊の課題として取り上げられていますが、実際に子どもたちを受け入れている在籍校においては、様々な課題があります。外国にルーツをもつ子どもたちの在籍校と一言でいっても、在籍数や人的配置をはじめとする受入れ体制は多様です。在籍数に対する指導者の数については、全国的に統一された基準はなく、各都道府県や学校に一任されているからです。また、日本語指導についても、基準となる教材やカリキュラムがないことから、それぞれの指導者が一から考え、取組を進めていかなければならない状況です。このような厳しい状況は、本市においても同様です。

平成 25 年 1 月 28 日現在、本市の少数在籍校は、小学校 38 校（在籍数 68 人）、中学校 24 校・（在籍数 41 人）です。これは、在籍数が 6 人以下の学校の状況です。これらの子どもたちの来日背景や、滞日期間、母国での学習経験などは様々で、一人一人の状況をしっかりと把握することが、まず重要です。

そこで、子どもの状況を把握するためのツールを含めて、外国にルーツをもつ子どもたちを受け入れることになった場合に、だれが、何を、いつ、どのようにすればよいのかという、受入れの流れがよくわかる冊子が必要であると考えました。本冊子は、編入直後の日本語がわからない時期だけの支援ではなく、子どもたち一人一人に学力を保障し、それぞれの進路を実現するための長い期間を見通した支援の方策まで提示しています。

はじめて、外国にルーツをもつ子どもを受け入れた学校が、「どうすればよいの？」と悩んだときに、本冊子を活用していただきたいと思います。学校の教職員が戸惑うことなく、受入れ体制を整えることは、子どもが安心して通うことができる学校づくりにつながります。

本市の公立小・中学校に編入した、全ての外国にルーツをもつ子どもたちが、「日本に来てよかった。」「この学校に入ってよかった。」といえるようなサポート体制が実現することを、心から願っています。

※1：文部科学省「CLARINET」『日本語指導が必要な児童生徒を対象とした指導の在り方に関する検討会議の設置について』

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/kaigi/1320464.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/kaigi/1320464.htm)

# 1. 外国にルーツをもつ子どもたちの受入れ手順

—初登校日までに何をすればよいのか—

	学校がすること	通訳ボランティアの役割	本人・保護者がすること
①編入手続き日 ※詳細は、P.3を参照	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初面談日の決定</li> <li>・学校指導課への連絡</li> <li>・通訳ボランティアの申請 (初面談日・初登校日の分)</li> </ul>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校指導課人権教育担当に申請 (1週間前を目安に申請)</li> <li>○対象児童生徒一人につき、年間10回まで派遣可能</li> <li>○教科学習の通訳は不可</li> <li>○保護者に関わる通訳(懇談や参観など)は可能</li> </ul> </div>	
②初面談日まで ※詳細は、p.4を参照	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要な書類の準備</li> <li>・説明に使う学習予定表や具体物などの準備</li> <li>・通訳ボランティアと打合せ</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校との打合せ</li> </ul>
③初面談日 ※詳細は、p.4～p.8を参照 ※「 <u>個人カード</u> 」は p.11～15に掲載 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「<u>個人カード生活調査</u>」の記入</li> <li>・学校生活についての説明</li> <li>・記入が必要な書類の説明</li> <li>・初登校日の持ち物の連絡</li> <li>・初登校日の給食の手配</li> <li>・編入学年と学級の決定</li> <li>・教科書の手配</li> <li>・購入物品の手配</li> <li>・初登校日に必要な物の準備</li> <li>・全教職員での共通理解</li> <li>・通訳ボランティアの申請(1週間後の分)</li> <li>・日本語指導の申請</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校側の説明内容の通訳</li> <li>・保護者と本人からの質問事項の通訳</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と本人が来校</li> <li>・必要な書類の記入</li> <li>・必要な物品の購入</li> <li>・銀行の口座開設手続き</li> <li>・初登校日の持ち物準備</li> </ul> 
④初登校日 ※詳細は、p.9,10を参照 ※「 <u>個人カード</u> 」は p.11～15に掲載	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内</li> <li>・母国の生活についての聞き取り →「<u>個人カード学習調査</u>」の記入</li> <li>・<u>学力把握テスト</u>※2</li> <li>・職員室で昼食についての説明</li> <li>・受入れ学級での準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校案内の際の通訳</li> <li>・母国の生活について聞き取る際の通訳</li> <li>・昼食準備や食べ方について通訳</li> <li>・その他学校側の伝達事項の通訳</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人だけ登校(保護者同伴も可)</li> <li>・教室の確認</li> <li>・学習予定表の見方の確認</li> <li>・通学路の確認</li> </ul>
⑤2日目 ※詳細は、p.10を参照	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の準備方法やロッカーなどの確認(担任が一緒に行く)</li> <li>・学校生活での様子の把握</li> <li>・次回通訳ボランティア派遣に合わせて連絡事項の整理</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の準備方法やロッカーなどの確認</li> <li>・<u>日本語学習開始(ひらがなの習得から)</u>※3</li> </ul>
1週間後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1週間の様子の把握</li> <li>・学校からの連絡事項の伝達</li> <li>・母語で自由に話せる時間の確保</li> <li>・次回の通訳ボランティアの申請</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1週間の様子について聞き取り、内容を学校へ伝達</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通訳ボランティア来校時刻に合わせて、1時間別室学習(保護者来校も可)</li> </ul>
約1ヶ月後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1ヶ月の様子の把握</li> <li>・学校からの連絡事項の伝達</li> <li>・母語で自由に話せる時間の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その後の様子について聞き取り、内容を学校へ伝達</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通訳ボランティア来校時刻に合わせて、1時間別室学習(保護者来校も可)</li> </ul>

学力把握テスト※2 『帰国・外国人児童生徒受入れの手引き(全市版・試案)』平成19年3月 京都市日本語指導・支援体制連絡協議会

日本語学習開始※3 指導時間の確保や指導者の確保が難しい場合は、ひらがなプリントを宿題にして、読み方だけを指導する。

## ①編入手続き日

帰国・外国人児童生徒が編入してくる場合は、ほとんどが突然であり、日本語が全くわからない状態での編入です。そのため、どのように受け入れればよいのか、言葉が通じなくてどうすればよいのかなど、受け入れる学校では戸惑うことが多く不安に感じることでしょう。しかし、外国にルーツをもつ子どもの編入は、日本の子どもたちや教職員が日本とは違う文化に触れる素晴らしい機会になります。また、一人一人が違うという点では、帰国・外国人児童生徒も、日本の子どもたちも同じです。まずは、子どもの実態をしっかりと把握するために、通訳も交えての第一回面談をもち、ゆっくりと話を聞きましょう。編入学年については、原則的には該当学年に入ることになりますが、**母国での学習歴 該当学年に依拠していないケースや、進路のことを考慮しなければならない中学校年齢での編入については、下の学年に編入といった配慮が必要な場合もある**でしょう。

『学校について説明したり、お子さんのことについて聞いたりすることがあります。大切な話なので、通訳に来てもらいます。時間は2時間くらいです。子どもさんも一緒に来てください。何月何日の何時に来ることができますか?』

ということを伝え、面談の約束をします。通訳の手配もありますので、次の日の約束ではなく、2・3日後で約束をしましょう。通訳の手配は、初回面談と、初回面談の翌日の午前（児童生徒の初登校日の午前）の2回分続けて依頼する必要があります。初登校日は通訳2回分（4時間）で依頼するとよいでしょう。英語・中国語であれば、**京都市の電話通訳（※資料1参照）**を利用することも可能です。

上の日本語の各国語訳は次の通りになります。**保護者に伝える際に提示して御活用ください。**

### <英語>

We'd like to ask parent(s) or/and guardian(s) to come to school with your child/children. We will provide information about school life and have interview on your child/children. This meeting needs two hours. We will arrange an interpreter because issues are very important. Please let us know your convenient time.

### <中国語>

老师要对有关学校生活作详细的说明，还要向您了解有关您孩子的各方面的具体情况。这些都是很重要的谈话内容，那时有翻译来。时间大约需要2小时左右。同时，务必请您和孩子一起来。您在什么时间有空能来学校？

### <タガログ語>

Magpapaliwanag kami ukol sa pamumuhay sa eskuwela o kaya magtatanong ukol sa anak ninyo. Ihahanda rin naming ang tagapagsalin dahil importanteng pag-uusap ito. Ito ay mga 2 oras. Isama rin po ang inyong anak. Anong oras ang mainam para sa inyo?

### <韓国・朝鮮語>

학교생활에 대해서 설명하거나 자녀의 상황에 대해서 확인하려고 합니다. 중요한 이야기이므로 통역사가 들어올 것입니다. 시간은 2시간 정도 걸립니다. 자녀와 함께 와 주십시오. 가능한시간대는 언제입니까?

**通訳の依頼も含めて**、外国籍児童生徒の編入があることを、『**学校指導課人権教育担当**』に連絡してください。

## ②初面談日まで

- ・説明が必要な書類や、説明で示す学習用品などの準備をします。
- ・通訳ボランティア決定後、電話で簡単な打ち合わせをします。

## ③初面談日

【学校側・・・管理職，教務主任】【帰国・外国人児童生徒側・・・本人と保護者】 ※2時間程度  
通訳を交えての貴重な面談の時間です。伝える必要のあること，保護者に聞いておく必要のあること  
について抜け落ちてしまわないように，事前に具体物や書類などの準備をしておきましょう。

初めての面談で伝える必要のあること，聞き取る必要のあることは，次の通りです。

- ・説明してから手渡す書類・・・ \_\_\_\_\_ で表記（学習予定表 時間割表 など）
- ・準備が必要な書類（その場で記入するもの）と具体物・・・  で表記（教科書 給食袋 など）

## ○学校生活全般について

①学校の一日の流れ・・・学習予定表や時間割表，校時表で具体的に説明します。

②学習する教科・・・教科書を見せて説明します。

※体育などの実技教科については，全ての活動に参加しなければならないことや，成績がつくことを説明します。夏の水泳学習についても説明が必要です。

③昼食について

<小学校>給食カレンダーや献立表，給食袋と給食当番のエプロンで説明します。

<中学校>お弁当も可，給食は申し込み制であることを説明します。 ※申し込み用紙の記入

※ アレルギーや宗教上の理由から，食べることができない物の確認

④一年間の予定・・・学校だよりや学年だよりで説明します。

・4月開始3月終了，前期・後期制，休日や長期休暇について

・遠足，宿泊学習，運動会，学芸会・学習発表会，体育祭・文化祭について

※行事の際にはお弁当が必要なことも説明しておきましょう。お弁当の文化がない国もあるので，写真などがあればわかりやすいです。

・家庭訪問，個人懇談について

※大切な機会であるので，必ず仕事の都合をつける必要があることを説明しておきましょう。

・授業参観，学級懇談会について

※なるべく仕事の都合をつけ参加して欲しいことを説明しましょう。

⑤学校のきまり・・・きまりを記載したもの。基本的には守る必要があることを説明します。

※生活習慣や宗教上の理由でのピアスやクロスなどは，配慮が必要です。

⑥身体計測や保健に関する検査・・・身体測定の内容や，各検診，尿検査などについては，実施について説明します。



## ○学校の費用について

①授業料・・・公立小学校，中学校については，授業料はかからないことを伝えます。

②給食費，教材費，積み立てなど・・・それぞれの費用がわかるものを提示して説明します。

③銀行引き落とし・・・銀行口座から引き落とすことを伝え，銀行に持参する用紙で銀行での手続きを説明します。年度初めに配布する，引き落とし日と年間の引き落とし金額がわかるプリントを用意しましょう。

④就学援助制度・・・実際の説明書と申請書を用意しておきます。特に，収入証明についてはわかりにくいいため，具体物を用意して見せるとよいでしょう。

## ○準備物について

### <毎日使うもの>

- ・ **ふでばこ** (中身も説明, 特に鉛筆の濃さに注意)
- ・ **したじき**
- ・ **各教科のノート** (学校で買える場合は購入してもらいましょう。値段を伝えます。)
- ・ **連絡帳** (使い方)
- ・ **上靴** **体育館シューズ**
- ・ 通学かばんについても, 望ましいものを説明します。
- ・ **各教科の教科書** (無償で, 後日渡すことを伝えます。)

欠席や遅刻, 早退,  
体育の見学等の連絡  
方法について説明

### <学校指定のもの>

- ・ **中学校の制服** **体育の服装** など  
購入方法と **申し込み用紙** があれば手渡します。貸し出しできるものがあれば, 貸与します。
- ・ 小学校の **お道具箱と中身**  
**金額のわかる一覧表を準備**。学校で購入し, 後日集金することを伝えます。



### <各教科で必要なもの>

**絵の具セット** **習字道具** **裁縫道具** **リコーダー** **アルトリコーダー** **鍵盤ハーモニカ** **彫刻刀**  
**コンパス** **三角定規** **30センチものさし** **算数セット** などについては, 基本的には学校で学年が使っているものを購入する方向で説明します。「経済的に大変ではないか」といった心配もありますが, 学習に必要なものであり, 揃っていないと困るのは子どもたちです。「道具が無いから学習に参加できない」ことがないように, 保護者に説明します。これらについては, 編入学年が決まってからの購入になります。そのことも伝えます。**※短期間しか使用しない物で, 貸し出しできるものがあれば, 貸与することも考えます。**

## ○その場で記入してもらおう書類について ※個人情報については厳密に取り扱うことを説明します。

### ①緊急連絡カード

学校でけがをしたり, 熱が出たりした場合に, 連絡すること, 必要であれば保護者に迎えをお願いすることを説明します。健康保険証の有無は忘れずにたずねます。(記号・番号は家で記入してもらい, 初登校日に児童生徒が持ってくることを伝えましょう。)

### ②保健調査表

わかる範囲で記入をお願いします。既往症や予防接種などについては, 家で記入して初登校日に持ってきてもらってもよいでしょう。ただし, 母子手帳のようなものがないこともあります。その場合は, 既往症, 予防接種の項目に沿って, 通訳を介して尋ねます。

③**教育調査票** (家庭環境調査票)・・・通学路について伝えましょう。

### ④**個人カード** 生活調査・学習調査

12 ページからの「個人カード」についての資料を活用して, できる範囲で聞き取って記入しておきましょう。**学習調査**については, 初登校日に児童生徒本人に尋ねることも可能です。**生活調査**については, 通訳と保護者が揃っている初面談の時間に記入を終えるようにしておきましょう。

○日本語指導と通訳派遣について ※以下の制度があることを説明します。

①初期日本語指導員派遣制度 ※永住者対象

- ・原則来日後3ヶ月以内の児童生徒に日本語指導の専門員が派遣されます。
- ・週に1～2回、授業または放課後の時間に日本語指導を受けることができます。
- ・派遣回数は、小学校は25回、中学校は35回です。



<英語>

① Japanese Language Instructors for learners in early stage \*Permanent residents only

- We send Japanese language specialists for students in the first 3 months in Japan.
- They teach Japanese in "pull out" classes during school hours or after school once or twice a week.
- An elementary school student and a junior high school student receive this service 25 times and 35 times a year, respectively.

<中国語>

① 对初来日本者的日语指导员派遣制度 ※对象：永住者

- ・对来日本3个月以内的中、小学生，将派遣日语专门人员进行日语指导。
- ・每周1-2次，利用上课的时间或者是放学后的时间，进行日语指导。
- ・派遣次数小学生是每人25次，中学生是每人35次。

<タガログ語>

① Paunang Pagpapapunta ng Tagapagturo ng Wikang Hapon ※Para sa permanenteng residente lamang

- ・Ang mga batang bago mag 3 buwan dito sa Japan ay puwedeng magkaroon ng tagapagturo ng wikang Hapon.
- ・Magtuturo ito ng wikang Hapon sa bata sa klase o pagkatapos ng mga klase, 1 o 2 beses sa isang lingo.
- ・Pupunta ito sa elementarya nang 25 beses, at 35 beses sa junior high school, kada isang estudyante.

<韓国・朝鮮語>

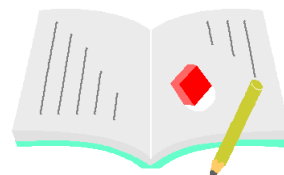
① 초기 일본어 지도자 파견제도 ※영주자 대상

- ・일본에 온 지 3개월 이내의 아동학생에게 일본어 지도 전문가를 파견합니다.
- ・주 1~2회, 보충수업 또는 방과 후에 일본어를 지도합니다.
- ・파견 회수는 초등학교 한 명 당 25회, 중학생 한 명 당 35회입니다.



## ②日本語指導ボランティア派遣制度

- ・初期日本語指導員の派遣終了後，日本語指導ボランティアに指導が引き継がれます。
- ・週に1～2回，放課後の時間の指導になります。派遣回数は年間上限52回です。
- ・毎年度始めに，一斉受け付けがありますが，年間を通じて受け付けられています。日常会話ができて，教科学習の理解が十分ではない児童生徒への派遣も可能です。



### <英語>

## ②Volunteer Japanese Language Instructors

- Volunteer Japanese language instructors subsequently teach the students who have completed the previous lessons by specialists.
- We send the teachers after school once or twice a week. Service is available up to 52 times a year per person.
- We can also send the teachers to the students who have some trouble to understand coursework in classes, even if they can handle everyday conversations.

### <中国語>

## ②日语指导志愿者派遣制度

- ・对初来日本者的日语指导员派遣结束后，由日语指导志愿者进行指导。
- ・这是每周1-2次，在放学后的时间进行指导。派遣次数是每人一年52次。
- ・可以进行日常会话，但在接受教学过程中，对日语的学习用语不能充分理解的学生，也可进行派遣。

### <タガログ語>

## ②Pagpapapunta ng Boluntaryong Tagapagturo ng Wikang Hapon

- ・Pagkatapos ng paunang tagapagturo, ang boluntaryong tagapagturo ng wikang Hapon ang tutulong sa bata.
- ・Pupunta ito pagkatapos ng klase 1 o 2 beses sa isang lingo, 52 beses sa isang taon kada isang estudyante.
- ・Puwede na rin tulungan ang batang marunong na sa pang-araw araw na salita ngunit di pa sapat sa pag-aaral.

### <韓国・朝鮮語>

## ②일본어 지도 봉사자 파견 제도

- ・초기 일본어 지도자의 파견 지도가 끝난 후 일본어 지도 봉사자가 지도합니다.
- ・주 1~2 회, 방과 후에 지도합니다. 파견 회수는 한 명 당 연간 52 회입니다.
- ・일상 회화가 가능해도 교과학습의 이해도가 떨어지는 아동학생에게도 파견합니다.

### ③通訳ボランティア派遣制度

- ・児童生徒一人に対して、年間10回まで通訳ボランティアの派遣が可能です。
- ・1回あたり約2時間です。教科指導の通訳はできません。児童生徒本人だけではなく、家庭訪問や懇談会、行事の説明会など、保護者対応への通訳も対象です。
- ・少なくとも、1週間前までには申し込みをしましょう。日本語がある程度できる保護者であっても、母語で話せる機会を保障しましょう。



#### <英語>

### ③Volunteer Interpreters

- This service is available up to 10 times a year per person.
- Each lesson is about 2 hours long. Interpreters provide language support not interpretation service in studying. Parents/guardians can use this service for a parent - teacher conference, school guidance, etc.

#### <中国語>

### ③口头翻译志愿者派遣制度

- ・每人一年最多可以接受10次派遣。
- ・一次大约是2小时。这是对来日已经3个月以上，但对日语的学习用语还不能够理解的学生的派遣。还有，谈心会、说明会等时也可以为家长做口头翻译。

#### <韓国・朝鮮語>

### ③통역 봉사자 파견 제도

- ・한 명 당 연간 10 회까지 파견이 가능합니다.
- ・1 회에 약 2 시간입니다. 교과지도의 통역은 불가능합니다. 간담회나 설명회 등 보호자에게 통역은 불가능합니다.

○母語の保持について ※日本語習得だけではなく、母語も大切なことを伝えます。

<年齢が低い場合（8歳前後まで）>

- ・家庭では母語でのやりとりを続けていくことが大切です。日本語の会話は早く覚えますが、母語も早く忘れるからです。家庭でのコミュニケーションができなくなる可能性があります。
- ・母語の本などの読み聞かせや、テレビやビデオを視聴したりする機会が大切です。

<年齢が高い場合（母語での読み書きができている場合）>

- ・母語の学習が日本語の習得にもよい影響をもたらすため、家庭での母語学習は大切です。
- ・母語対訳の教材があれば、積極的に手渡し、自学自習を勧めます。※母語訳教材については、p.37 参照

### 編入学年決定について

基本的には年齢相当の学年が原則です。しかし、本人の来日前の教育環境や学力等で年齢相当の学年で受入れることは困難であると想定される場合は、調査課及び学校指導課にご相談ください。

#### ④初登校日

管理職もしくは、教務主任と通訳ボランティアと一緒に行動します。通訳ボランティアは2回分（4時間）申請しましょう。初登校日に、母国での生活や学習の様子、算数（数学）や母語での学力状況などを把握する時間を確保し、子どもの現状を知ることが大切です。できれば、初登校日の午前中は在籍学級とは別の部屋を確保することが望ましいでしょう。通訳ボランティアと一緒に行動できる4時間を目安に過ごし方を考えます。給食は職員室で準備し、配膳の練習や食べ方についても説明できると安心です。（中学校では昼食について説明）午後からの時間は在籍学級に入る、もしくは別室でひらがなや簡単な挨拶の学習を始めることなどが考えられます。

#### 〈小学校での初登校日の過ごし方例〉

1 時 間 目	学校案内	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高学年の子どもには、校舎平面図や教室配置図をもちながら案内するとわかりやすいでしょう。</li> <li>・保健室については、養護の先生がおられるときに案内できると安心です。</li> </ul>
2 時 間 目	学力把握テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数の計算力把握テスト（平成19年3月 帰国・外国人児童生徒受入れの手引き p.37～）</li> <li>・母語での作文（例えば、「母国の学校紹介」）</li> </ul> ※低学年で母語での読み書きができない場合もあります。
3 時 間 目	母国での学校生活について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母国の学校生活について、「個人カード <b>学習調査</b>」を使って聞き取ります。</li> </ul> ※宿題の有無や、習い事、学習形態や教師の雰囲気なども聞いておくようにします。
4 時 間 目	毎日の準備について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習予定表の見方を説明します。各教科と持ち物の母国語を書き入れながら説明します。この最初の学習予定表を参考にして、今後の予定表を見ていくように指示します。</li> <li>・対象児童生徒が自分の名前を言う練習をしておきましょう。</li> </ul>
給 食 指 導	職員室で準備など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食準備を手伝いながら説明します。</li> <li>・食べられない物の減らし方や増やし方も説明します。</li> <li>・片付けの方法を、実際にしながら説明します。</li> <li>・給食当番の役割の説明をします。</li> </ul>
午 後	在籍学級に入る もしくは 別室で日本語学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在籍学級に入る場合は、下校時に帰り道が同じ方向の友だちと担任とで一緒に帰れるようにしましょう。</li> <li>・日本語学習は、ひらがなや簡単な挨拶から始めます。</li> </ul>

#### 全教職員での共通理解

これまでの聞き取りなどでわかったことについて、全教職員で共通理解します。職員朝礼や職員会議の時間を利用します。

在籍学級以外のクラスの子どもたちにも、外国からの転入生があることを知らせるようにしましょう。どこの国からの転入なのか、日本語がまだわからないことなども伝えます。

## ○教室での準備

- ・学級の子どもたちには、名前、出身国、日本語がわからないことを伝えます。
- ・みんなの話す日本語やみんなの行動がお手本となることを伝えましょう。
- ・編入児童生徒の母語の「こんにちは」という挨拶を、みんなで練習するのもよいでしょう。
- ・「外国から新しい友だちがやって来る」という、嬉しい気持ちで迎えられるようにしましょう。



### 〈環境面での準備〉

※クラスの子どもたち全員で準備できるといいでしょう。

## ローマ字とひらがなで示す

- ・一人一人の名前
- ・物の名前
- ・場所の言い方

## 世界地図を提示 日本と友だちの国

※国旗や挨拶の言葉も  
表示しましょう。

### 〈配慮すること〉

※学年に応じた説明の仕方理解をうながします。

## みんなが 日本語の先生

- ・ていねいに
- ・ゆっくりと
- ・にっこりと



## 給食や遊び時間

- ・食べられないもの
- ・遊びの違い



## ⑤2日目

- ・登校後、学級担任と一緒に教室へ行き、朝の準備の仕方やロッカーの場所などを確認します。
- ・休み時間には、全員で遊ぶ機会を設けるなど、一緒に過ごせる工夫をしましょう。  
ただ、日本では当たり前の遊びも、知らない可能性があります。
- ・給食時間には、食べ慣れないものについては、残してもよい配慮が必要です。
- ・学習に必要な物が全部揃うまでの配慮が必要です。

## 2. 子どもの現状を把握するツール

### (1) 母国での生活経験や学習経験をj知る「個人カード」

「個人カード」は、対象児童生徒のこれまでの生活経験や将来の展望、家庭の状況などについて把握するものです。小・中学校9年間継続して記録し、引き継ぐことができるようになっています。

学習調査には、母国での学習経験を問う欄があります。日本の教科学習について、その主な内容を学習したことがあるかどうか、経験を○・×で記入します。また、日本の学校行事についても、その経験の有無を○・×で記入します。

帰国・外国人児童生徒用

### 秘 個人カード 学習調査

1年 組(担任 )	4年 組(担任 )	中学1年 組(担任 )																																																																																									
2年 組(担任 )	5年 組(担任 )	中学2年 組(担任 )																																																																																									
3年 組(担任 )	6年 組(担任 )	中学3年 組(担任 )																																																																																									
ふりがな 名前	性別 男・女																																																																																										
●母国での学習経験( 年 月 日記入)																																																																																											
<table border="1"> <tr> <th>科目</th> <th>学習内容</th> <th>○・×</th> <th>科目</th> <th>学習内容</th> <th>○・×</th> <th>科目</th> <th>学習内容</th> <th>○・×</th> <th>科目</th> <th>学習内容</th> <th>○・×</th> </tr> <tr> <td rowspan="5">国語</td> <td>四則計算</td> <td></td> <td rowspan="4">理科</td> <td>生物</td> <td></td> <td rowspan="5">保健 体育</td> <td>保健</td> <td></td> <td rowspan="5">技術 家庭 工・美術</td> <td>調理</td> <td></td> </tr> <tr> <td>図形</td> <td></td> <td>化学</td> <td></td> <td>球技</td> <td></td> <td>裁縫・ミシン</td> <td></td> </tr> <tr> <td>長さ・重さ・かさ等</td> <td></td> <td>物理</td> <td></td> <td>陸上</td> <td></td> <td>コンピュータ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>時刻</td> <td></td> <td>地学</td> <td></td> <td>器械体操</td> <td></td> <td>木工</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地理</td> <td></td> <td>歌(合唱)</td> <td></td> <td>縄跳び</td> <td></td> <td>栽培</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">社会</td> <td>歴史</td> <td></td> <td>鍵盤ハーモニカ</td> <td></td> <td>ダンス</td> <td></td> <td>絵・版画</td> <td></td> </tr> <tr> <td>公民</td> <td></td> <td>リコーダー</td> <td></td> <td>水泳</td> <td></td> <td>造形(粘土)</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>英語</td> <td></td> <td>道徳</td> <td></td> <td>工作</td> <td></td> </tr> </table>	科目	学習内容	○・×	科目	学習内容	○・×	科目	学習内容	○・×	科目	学習内容	○・×	国語	四則計算		理科	生物		保健 体育	保健		技術 家庭 工・美術	調理		図形		化学		球技		裁縫・ミシン		長さ・重さ・かさ等		物理		陸上		コンピュータ		時刻		地学		器械体操		木工		地理		歌(合唱)		縄跳び		栽培		社会	歴史		鍵盤ハーモニカ		ダンス		絵・版画		公民		リコーダー		水泳		造形(粘土)				英語		道徳		工作		<p>○学習内容以外で確認しておきたい事項 ※母国の学校での有無を○・×で記入</p> <table border="1"> <tr> <td>運動会</td> <td>遠足</td> <td>身体計測</td> <td>体育の全員参加</td> </tr> <tr> <td>学芸会・学習発表会</td> <td>宿泊学習</td> <td>授業参観・懇談会</td> <td>体育の服装</td> </tr> </table> <p>&lt;その他、母国の学校で学習していた教科や特別な活動&gt;</p>		運動会	遠足	身体計測	体育の全員参加	学芸会・学習発表会	宿泊学習	授業参観・懇談会	体育の服装
科目	学習内容	○・×	科目	学習内容	○・×	科目	学習内容	○・×	科目	学習内容	○・×																																																																																
国語	四則計算		理科	生物		保健 体育	保健		技術 家庭 工・美術	調理																																																																																	
	図形			化学			球技			裁縫・ミシン																																																																																	
	長さ・重さ・かさ等			物理			陸上			コンピュータ																																																																																	
	時刻			地学			器械体操			木工																																																																																	
	地理		歌(合唱)		縄跳び			栽培																																																																																			
社会	歴史		鍵盤ハーモニカ		ダンス		絵・版画																																																																																				
	公民		リコーダー		水泳		造形(粘土)																																																																																				
			英語		道徳		工作																																																																																				
運動会	遠足	身体計測	体育の全員参加																																																																																								
学芸会・学習発表会	宿泊学習	授業参観・懇談会	体育の服装																																																																																								

小学校1年から中学校3年までの記入欄がある。

母国での学習経験について記入する欄。日本の主な教科学習内容について、学習経験の有無を記入する。

運動会や遠足などの学校行事について経験の有無を記入する。

#### 【活用の仕方について】

個人カードは、対象児童生徒の学級担任だけではなく、子どもに関わる全ての指導者が必要なときに確認できることが大切です。例えば、クリアファイルを用意して、個人カードと、次で紹介する「日本語の力見取り表」を一緒に保存するようにします。それ以外にも、子どもの成長の様子が確認できる、作文やテストのコピーなどを一緒に入れておくとよいでしょう。ただし、扱いについては「指導要録」と同様、必ず鍵のかかる場所で保管しましょう。※個人情報関係の書類です。厳重に管理しましょう。

母国での生活経験や学習経験から、支援が必要な場面がはっきりとします。例えば、運動会の経験がない子どもに対しては、映像を見せたり、意義を説明したりする支援が必要です。教科学習の経験についても、既習事項でない事柄については、日本語の習得に関係なく理解することができないと考えることが大切です。

このように、一人一人の子どもについて現状を把握することが大切です。

㊟ 個人カード 生活調査

1年 組 (担任 )	4年 組 (担任 )	中学1年 組 (担任 )
2年 組 (担任 )	5年 組 (担任 )	中学2年 組 (担任 )
3年 組 (担任 )	6年 組 (担任 )	中学3年 組 (担任 )
ふりがな 名前		
	要・準 男女	
生年月日	年 月 日 ( 年 月 日)	
来日年月日	年 月 日	
編入学年月日	年 月 日 ( 年入学・編入)	
国籍 (出身地)		
現住所	〒 -	
電話		
学習歴	入学・卒業・転入・転出年月日	学校名
	年 月 日入学・転入 年 月 日卒業・転出	( 年制)
	年 月 日入学・転入 年 月 日卒業・転出	( 年制)
	年 月 日入学・転入 年 月 日卒業・転出	
	年 月 日入学・転入 年 月 日卒業・転出	
来日の目的	留学・就労・国際結婚・永住・その他( )	
在日予定期間	1. 永住                                  2. 年 月まで                                  3. 不明	
過去の在日経験	あり・なし	
日本語の状況 (日本語学習歴)	日本語学習歴: 年 カ月                                  教育機関:	
	<特記事項>	
使用可能言語	母語 ( )                                  聞く:                                  話す:                                  読む:                                  書く:	
	母語以外 ( )                                  聞く:                                  話す:                                  読む:                                  書く:	
	※言語状況の選択肢 【A: 読み書きを含めて問題ない B: 日常会話は問題ない C: 簡単な日常会話程度 D: ほとんどわからない】	
進路希望		将来の夢
趣味・特技		
特に知っておいて欲しいこと※アレルギーや持病, 宗教上の習慣 (お祈りや食べられないもの等) など		

家族・同居人	氏名	続柄	年齢	言語状況	備考 (使用可能言語等)
				日本語 聞く： 話す： 読む： 書く： 語 聞く： 話す： 読む： 書く：	
				日本語 聞く： 話す： 読む： 書く： 語 聞く： 話す： 読む： 書く：	
				日本語 聞く： 話す： 読む： 書く： 語 聞く： 話す： 読む： 書く：	
				日本語 聞く： 話す： 読む： 書く： 語 聞く： 話す： 読む： 書く：	
				日本語 聞く： 話す： 読む： 書く： 語 聞く： 話す： 読む： 書く：	
				日本語 聞く： 話す： 読む： 書く： 語 聞く： 話す： 読む： 書く：	

※言語状況の選択肢【A：読み書きを含めて問題ない B：日常会話は問題ない C：簡単な日常会話程度 D：ほとんどわからない】

緊急連絡先	名前	(在宅時間： )		
	☎ ( )	—	携帯： —	—

日本語の援助をしてくれる知人(連絡先)

学年	生活面における特記事項
小学校1年	
小学校2年	
小学校3年	
小学校4年	
小学校5年	
小学校6年	
中学校1年	
中学校2年	
中学校3年	

**秘 個人カード 学習調査**

1年 組(担任 )	4年 組(担任 )	中学1年 組(担任 )
2年 組(担任 )	5年 組(担任 )	中学2年 組(担任 )
3年 組(担任 )	6年 組(担任 )	中学3年 組(担任 )
ふりがな 名前		
	性別 男・女	

●本人の興味・関心

得意教科	
特別活動	
その他 ( ・出欠状況 ・留年経験 ・学校外での活動 等 )	

●母国での学習経験( 年 月 日記入)

科	学習内容	○・×	科	学習内容	○・×	科	学習内容	○・×	科	学習内容	○・×
国語			理科	生物		保健 体育	保健		技術 家庭	調理	
算数・ 数学	四則計算			化学			球技			裁縫・ミシン	
	図形			物理			陸上			コンピュータ	
	長さ・重さ・かさ等			地学			器械体操			木工	
	時刻			歌(合唱)			縄跳び			栽培	
社会	地理		音楽	鍵盤ハーモニカ		ダンス		図工・ 美術	絵・版画		
	歴史			リコーダー		水泳			造形(粘土)		
	公民			英語		道徳			工作		

○学習内容以外で確認しておきたい事項 ※母国の学校での有無を○・×で記入

運動会		遠足		身体計測		体育の全員参加	
学芸会・学習発表会		宿泊学習		授業参観・懇談会		体育の服装	

<その他、母国の学校で学習していた教科や特別な活動>



学年	学習面における特記事項
小学校 1 年	
小学校 2 年	
小学校 3 年	
小学校 4 年	
小学校 5 年	
小学校 6 年	
中学校 1 年	
中学校 2 年	
中学校 3 年	

※帰国・外国人児童生徒受入れの手引き<全市版・試案> 平成 19 年 3 月 京都市日本語指導・支援体制連絡協議会作成 より 一部改定

(2) 日本語の力を見取る「日本語の力見取り表」 ※資料参照 (P40)

○子どもの言語の力には次の**三つの特徴**があるといわれています。

<b>動態性</b> 常に変化している	<b>非均質性</b> 場面や状況に応じて変わる	<b>相互作用性</b> 目的や相手によって異なる
------------------------	-----------------------------	------------------------------

更に、子どもは認知面でも言語面でも発達の途中にあります。そのため、日本語指導が必要な子どもたちの日本語の力は、ペーパーテストではとらえきれないと考えられます。そこで、以下の5点に配慮して「日本語の力見取り表」を作成しました。

- 子どもに関わる全ての指導者が使えること
- 子どもの様子から見取ること
- 聞く・話す・読む・書く の4技能から見取ること
- 小・中学校9年間継続して把握すること
- 見取った結果が支援につながること

小・中学校9年間継続して記入  
年間3回記入

それぞれの力で、「◎」「○」「△」を記す  
・「△」のレベルに達していない場合は「  
・「初」は夏休み前、「中」は冬休み前、「終」は卒業前

外国にルーツをもつ子どもたち  
日本語の力見取り表  
聞くこと・話すこと  
読むこと・書くこと

【聞くこと】 聞く力	子どもの様子	小学校						中学校		
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	
		初	中	終	初	中	終	初	中	終
①生活場面における聞く力	◎ 日常的な会話であれば、問題なく理解している。 ○ 一対一で、ゆっくりと話せば、大体理解している。 △ 単語とジェスチャーで伝えれば、なんとか理解している。									
②学習場面における聞く力	◎ 授業中に先生や友だちの発言を聞いて理解している。 ○ 全体への指示や発問などを聞いて理解している。 △ 一対一の対応があれば理解している。									
◆特記事項										
例:授業中の発問は黒板に書くと理解することができる。(12月)										
例:日常会話は問題ないが、学習場面では、指示や発問などをよく聞き直します。(3月)										
◆記入者(担当教科)										

子どもの様子から  
◎, ○, △ (×) で  
記入

子どもの様子の項目  
以外の特記事項

### 3. 子どものつまずきを基にした授業づくり

#### (1) 子どもたちがつまずく五つの要因

日本語の力の不足が、在籍学級の一斉授業に困難を感じる大きな要因であることは確かです。しかし、それ以外にも次の五つの要因が考えられます。

##### <①学習内容そのものが未習得、未経験>

学習する教科や内容は国によって様々です。共通事項が多いと考えられる算数・数学や英語でさえ、該当学年の学習内容が理解できない可能性があります。それ以外の教科については、未経験もしくは未習得の場合が多いことを認識する必要があります。「この学年だから、これは理解できるだろう。」という認識は当てはまらないということです。

##### <②母国との学習形態や指導方法の相違>

学習形態や指導方法も国によって様々です。一斉授業や椅子に座っての授業の経験がないかもしれません。また、日本での「体育」は、体育の服装に着替えて全員が活動しなければなりません。国によっては着替える習慣がないこともありますし、得意な子どもだけが活動するところもあります。このような違いから、どのような行動をとればよいのかわからなかったり、不適応を起こしたりしてしまい、学習活動に参加しにくくなることもあります。

##### <③日本の文化背景や生活習慣に関する知識不足>

当然ですが、外国から来た子どもたちは、日本の生活習慣や文化背景から得る知識をもっていません。しかし、教科の学習内容はこれらの知識が必要なことが多く、授業もその知識をもっていることを前提として進められます。特に、国語科や社会科はその傾向が強いと考えられます。例えば、小学校の社会科では、伝統産業を取り上げたり、国語科では季節の言葉を使った学習活動があったりします。



このような知識がない子どもたちは、学習活動に参加できなくなってしまいます。

##### <④一人から多人数への発話を聞き取る力の不足>

例えば、教師から全体への発問や指示を一度で聞き取ることは大変難しいことです。「〇〇ページを見ます。」のような短い文であれば、日本語の習得が少し進んだ子どもなら理解することができます。しかし、少し複雑な内容になると、日本語の習得がかなり進んだ子どもでも、理解することは難しいです。特に、毎時間のはじめの発問や指示を聞き取ることができなければ、授業の最初から出遅れてしまう結果となります。更に、そのことが積み重なることにより、「どうせ聞いていてもわからない。」という気持ちを抱いてしまったり、聞き取ろうとしない習慣がついてしまったりします。

##### <⑤理解できた内容を表現する力の不足>

日本語の会話がある程度できるようになった子どもたちでも、話している内容を、自分以外の人にわかるように発表したり、書き表したりすることは難しいです。例えば、「きのう、〇〇ちゃんといっしょに、こうんでブランコにのった。」と話すことはできても、それを正しく表現するには、「促音」「拗音」「長音」をそれぞれ正しく発音したり表記したりできなければなりません。また、会話であれば、「と」や「で」の助詞が抜けていても、言いたい内容は伝わりますが、発表するときや書くときは、抜かしてしまうと、伝えたいことが正確に伝わらないこともあります。

学習内容が理解できて、自分の考えをもつことができたとしても、それを正しい「書きことば」で表すことができずに、諦めてしまうこともあります。



(2) 単元や授業でのつまずきを予想する

母国での生活経験や学習内容を配慮した、単元構成と授業計画づくりについて説明します。生活経験を配慮した例を紹介します。

ケース1：小学校入学直後に、フィリピンから編入してきた小学校1年の児童である。母国は一年中「夏」であり、「冬」の生活経験はない。

この児童が、国語科「かるたをつくろう『あつまれ、ふゆのことば』」の学習活動に参加すると考えます。

かるたをつくろう「あつまれ、ふゆのことば」  
平成23年度版 京都市スタンダードよりお一部抜粋

時	学 習 活 動	留 意 点
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ふゆ」の言葉を集め、かるたを作って遊ぶ計画を立てる。</li> <li>・教材文を読み、「ふゆのことばかるた」を作って遊ぼうというめあてをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ふゆ」の言葉をたくさんめられるように、五十音表を利用する。（「あ」がまる冬の言葉、「い」がまる冬の言葉など）</li> <li>・「ふゆ」の言葉を広げらるさめることる。</li> <li>・集めた言葉を互いの場を設ける。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集めた冬の言葉から、かるたの読み札を作る。</li> <li>・かるたの作り方を知る。</li> <li>・集めた言葉を基に読み札を作る。</li> <li>・読み合い、作り方を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かるた作りへの意欲が高まるように、教師の手作りかるたを用意する。</li> <li>・リズムカルな文が作れるように、カードを使うことで、集めた言葉を選んだり、並び替えたりすることが容易にできるようにす</li> </ul>

対象児童にとっては、「ふゆ」の生活経験がないので、連想しにくい。

↓

第1時に入る前に、「ふゆ」の生活について知る時間を設ける。ビデオを視聴したり、絵本を読み聞かせたりして、イメージをもたせる。

対象児童は、「かるた」遊びの経験がないかもしれない。

↓

第2時の授業時間内に、「かるた」遊びを紹介するような学習活動を組み込む。

このように、予想されるつまずきを基に、学習の進め方を少し細かく段階分けし、その段階ごとに、手だてをうつ考え方が「スモールステップ」です。

次に中学校音楽科で考えてみましょう。

ケース2：中学校1年生の5月に編入してきた生徒である。

母国では、音楽科の授業はあったが、リコーダーの演奏経験はない。

この生徒が、中学校音楽科1年「ハーモニーの美しさを感じ取り、楽しく演奏しよう」の学習活動に参加すると考えます。

第1学年 音楽科指導計画・評価計画より指導計画(例) 平成24年京都市スタンダードより一部抜粋

学習評価を生かした学習活動の計画例

時間	学習活動	指導上の工夫や留意点	評価規準との関連 (評価方法及び評価の留意点)
1	○旋律の美しさを感じ取りながら歌唱する。 ○「エーデルワイス」のハーモニーの美しさを感じ取りながら歌唱する。	・発声の状態を見ながら、姿勢、	関一①(観察)
2	○旋律やハーモニーの美しさを感じ取りながら2部合唱する。 ○アルトリコーダーの基礎的な奏法を身に付ける。	豊かな響きで歌わせる。 ・LESSON1の練習に取り組み、「エーデルワイス」の副旋律をアルトリコーダーで演奏するための基礎的な技術を身に付けさせる。	関一①(観察)
3	○「エーデルワイス」の旋律の歌唱と副旋律のアルトリコーダー演奏の合奏を聴き、ハーモニーの美しさを知覚する。 ○旋律の美しさを感じ取りながら、エーデルワイスの副旋律をアルトリコーダーで演奏する。	・少人数のグループによる歌唱と教師のアルトリコーダーの範奏を合わせて演奏し、全員が歌うことと聴くことの両方ができるようにする。 ・気付いたことをワークシートに記入させる。 ・タンギングやブレスの取り方を指示し、フレーズ感を損なわないよう注意させる。	関一②(観察, ワークシート) 工一①(観察, ワークシート) 技一②(観察)
4	○旋律の美しさ、ハーモニーの美しさを感じ取りながら歌唱し、アルトリコーダーとの合奏をする。 ○音色、音程、強弱の取り方を知覚しながら演奏し、曲想を生かして発表する。	・前時までに取り組んだ音楽表現	関一②(観察, ワークシート)

リコーダーの演奏経験がないため、運指や演奏方法の知識をもっていない。  
↓  
運指が確認できるような掲示物や演奏方法が視覚的に理解できる教材を準備したり、演奏の見本を見せたりする。

タンギングやブレスという言葉の意味を理解することができない。  
↓  
動作化などを採り入れて、言葉の意味をていねいに確認する。

### (3) 具体的な支援

日本語の力見取り表で見取った「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の四つの力は、各教科等の授業で必要な力です。それぞれの力に応じた支援を採り入れることができれば、どの授業でも有効であると考えました。

そこで、「日本語の力に応じた支援表」を作成しました。支援は、次の二つに分けて提示しました。

<理解支援> 提示物・板書、指導者の話し方、学習形態

<表現支援> 表現方法、モデルの提示、学習形態

また、学習場面における支援については、**読1** のように番号がついています。これらの具体的な支援例は、平成24年6月発刊の「日本語指導が必要な子どもたちのための日本語の力、生活経験に応じた授業づくりの考え方・支援例集」に掲載されています。**この冊子は、京都市内の公立小・中学校に1冊配布されています。また、京都市総合教育センター研究課のウェブページ（平成23年度研究の成果物）からもダウンロードが可能です。**

【「日本語の力に応じた支援表」の見方】

「日本語の力見取り表」の  
子どもの様子

<理解支援> 提示物・板書の工夫、指導者の話し方、学習形態の工夫など

	子どもの様子	支援例
生活場面	△単語とジェスチャーで伝えれば、なんとか理解している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話しかける際には、一対一で顔を見て、口をはっきりと開けて一言ずつゆっくりと話す。</li> <li>・絵カードを利用したり、筆談で簡単な絵などを採り入れたりと話す。</li> <li>・時間割の教科名は、教科書の写真を提示して伝える。</li> <li>・持ち物は、絵や写真を提示して伝える。</li> </ul>
	○一対一でゆっくりと話せば、大体理解している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話しかける際には、一対一で顔を見て、ゆっくりと話す。</li> <li>・主語と述語を明確にして話す。</li> <li>・理解できているかどうか、時々確認しながら話す。</li> </ul>
学習	△一対一の対応があれば理解している。	<p><b>聞1</b> 発話の文末表現は、「です」「ます」で統一する。</p> <p><b>聞2</b> 指示や発問は、同時に動作を加えたり、絵カードを示したりしながら、主語と述語の2語文で伝える。</p> <p><b>聞3</b> 説明しようとするものに関する、絵カードや具体物、半具体物（写真や絵など）により、視覚的に理解をうながす工夫をする。</p> <p><b>聞4</b> 指示は個別に伝える。</p> <p><b>聞5</b> 二人組での学習形態を採り入れる。</p>
	○一斉への指示や発問などを聞いて理解している。	<p><b>聞6</b> 指示や発問はフラッシュカードや板書で示す。</p> <p><b>聞7</b> 主語と述語が明確な、短い文で話す。</p> <p><b>聞8</b> 経験のない学習活動の説明や、説明の内容が複雑な場合は、見本を見せたり、ICT機器（電子黒板、デジタルテレビ</p>

それぞれの力に応じた支援

## 日本語の力に応じた支援表

※表中に番号がついている支援は、支援の具体例が「日本語指導が必要な子どもたちのための『日本語の力、生活経験に応じた授業づくりの考え方・支援例集』」に掲載してあるものです。(学習場面における支援)

### <理解支援> 提示物・板書の工夫、指導者の話し方、学習形態の工夫など

※表現支援中の「ひらがな・カタカナが併記された五十音表」「感情を表す言葉カード」については、「日本語指導が必要な子どもたちのための『日本語の力、生活経験に応じた授業づくりの考え方・支援例集』」に資料として掲載しています。

		子どもの様子	支援例
生活場面	聞く力	△単語とジェスチャーで伝えれば、なんとか理解している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話しかける際には、一対一で顔を見て、口をはっきりと開けて一言ずつゆっくりと話す。</li> <li>・絵カードを利用したり、筆談で簡単な絵などを採り入れたりして話す。</li> <li>・時間割の教科名は、教科書の写真を提示して伝える。</li> <li>・持ち物は、絵や写真を提示して伝える。</li> </ul>
		○一対一でゆっくりと話せば、大体理解している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話しかける際には、一対一で顔を見て、ゆっくりと話す。</li> <li>・主語と述語を明確にして話す。</li> <li>・理解できているかどうか、時々確認しながら話す。</li> </ul>
学習場面	聞く力	△一対一の対応があれば理解している。	<p>聞1 発話の文末表現は、「です」「ます」で統一する。</p> <p>聞2 指示や発問は、同時に動作を加えたり、絵カードを示したりしながら、主語と述語の2語文で伝える。</p> <p>聞3 説明しようとするものに関する、絵カードや具体物、半具物（写真や絵など）により、視覚的に理解をうながす工夫をする。</p> <p>聞4 指示は個別に伝える。</p> <p>聞5 二人組での学習形態を採り入れる。</p>
		○一斉への指示や発問などを聞いて理解している。	<p>聞6 指示や発問はフラッシュカードや板書で示す。</p> <p>聞7 主語と述語が明確な、短い文で話す。</p> <p>聞8 経験のない学習活動の説明や、説明の内容が複雑な場合は、見本を見せたり、ICT機器（電子黒板、デジタルテレビ、実物投影機など）を活用したり、視覚的に理解をうながす工夫をする。</p> <p>聞9 二人組や少人数での学習形態を採り入れる。</p> <p>聞10 友だちの発言内容が理解できるように、板書を工夫する。</p>
	文章を理解する力	△絵や写真などの資料から、大体的内容を理解している。	<p>読1 文や文章の大体的内容を理解する手助けとなる挿絵や写真、資料など、視覚的に理解をうながす工夫をする。</p> <p>読2 物語文の場合は、最初に登場人物や場面を確認する。</p> <p>読3 各場面や各段落の内容を、「誰（何）がどうした。」のような2語文で示す。</p>
		○語句の説明があれば、文章の大体的内容を理解している。	<p>読4 文章の中の大事な言葉を明示する。</p> <p>読5 抽象的な言葉や、理解しにくい言葉、日本文化を背景とした言葉については、簡単な日本語で言い換えたり、理解できる提示物や教材などを工夫したりする。</p>

<表現支援>表現方法, モデルの工夫, 学習形態の工夫など

	子どもの様子	支援例	
生活場面	話す力 △単語とジェスチャーを組み合わせ て話している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>話を聞く際には、一対一で顔を見て聞くようにする。</li> <li>発言や意思表示に使う絵カードを準備して渡す。</li> <li>筆談で、簡単な絵などを使って話すようにうながす。</li> </ul>	
	○たどたどしい表現があるが、 なんとか話している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>話を聞く際には、一対一で顔を見て聞くようにする。</li> <li>表現しにくい場合には、筆談を採り入れて話すようにうながす。</li> <li>表現しにくい場合には、質問したり言葉を補ったりして話が続けられるようにする。</li> </ul>	
学習場面	話す力 △個別への問いかけに対して、 単語程度で応えることができ ている。	話1 発言や意思表示に使う絵カードを準備して渡す。	
		話2 絵や図での表現を採り入れる。	
	話す力 ○一斉への発問に対して答えが 明らかな場合には発言してい る。	話3 書いたものを読んだり見せたりしながら、発表する形態を採り入れる。	
		話4 発言や意思表示に使う「動作を表すカード」「感情を表す言葉カード」「発表に使う話型カード」などを準備する。	
	タカ カ ナ を 読 む ひ ら が な カ タ カ ナ を 読 む	話5 発表前に、話す内容を書く時間を設定する。	
		話6 二人組や少人数での学習形態を採り入れる。	
	タカ カ ナ を 読 む ひ ら が な カ タ カ ナ を 読 む	話6 △発音するのに時間がかかっ ている。	話6 ひらがな・カタカナが併記された五十音表を渡す。
		話7 ○時々、発音を間違えて読んで いる。	話7 正しく発音できない場合は、指導者の発音を聴いて繰り返して発音する。
	文 章 を 音 読 す る 力 文 章 を 音 読 す る 力	△言葉や文単位で読むことがで きず、一字ずつ読んでいます。	話8 指導者の範読、それらを録音したものなどを活用して、読みのモデルを示す。
			話9 分かれ書きされていない文には、文節に区切りを入れる。
		○漢字や文の区切りを、時々間 違えて読んでいます。	話10 (漢字が)読めない場合には、ふりがなをうつ。
			話11 区切りがわかりにくい言葉や文がある場合には、区切りを入れる。
ナ を 書 く ひ ら が な カ タ カ ナ を 書 く	話12 「」（かぎかっこ）の工夫がわかりにくい場合には、声の調子を記入する。	書1 ひらがな・カタカナが併記された五十音表を渡す。	
	△文字を書くのに時間がかかっ ている。	書2 正しく表記できない場合は、個別に濁音・半濁音、促音、撥音、拗音・拗長音などの書き方をまとめたカードを準備して渡す。	
漢 字 を 書 く 力 漢 字 を 書 く 力	△「山」や「目」など、簡単な漢字 なら書いている。	書3 書けない場合は、個別に漢字を示す。	
	○難しい漢字は書けないが、ある 程度の漢字を書いている。	書4 提示物や板書は、漢字の字形や見やすさを考えてふりがなを打つ。	
文 章 を 書 く 力 文 章 を 書 く 力	△一文程度なら書いている。	書5 提示物や板書は見やすい大きさと書く。	
		書6 大事な言葉だけを書き写すワークシートを準備する。	
	○経験したことやあったことを書 いている。	書7 絵や図での表現を採り入れる。	
		書8 あらかじめ書き出しが書かれていたり、穴埋め形式になっていたりするワークシートを準備する。	
		書9 書くときの手本となるモデル文を提示する。	
		書10 書くときの参考となる「動作を表す言葉カード」「感情を表す言葉カード」などを準備する。	



#### 4. 全校の支援するサポート体制づくり

—全ての授業で支援を採り入れるために—

##### (1) 個人で支援を考える「サポートシート①」

「サポートシート」は、日本語指導が必要な子どもたちの日本語の力や日々の様子から、授業で必要な支援を考え、実際に採り入れていくためのものです。「サポートシート①」は子どもに関わる全ての指導者が記入します。

日本語指導が必要な子どもたちのための「サポートシート① 個人記入用」

記入者[ ]

対象児童生徒 年 組 名前( )

	月	子どもの様子	必要だと思われる支援
聞くこと	4月		
	7月		
	12月		
	3月		
話すこと	4月		
	7月		
	12月		
	3月		
読むこと	4月		
	7月		
	12月		
	3月		
書くこと	4月		
	7月		
	12月		
	3月		
生活場面	4月		
	7月		
	12月		
	3月		

書き始める前に、「日本語の力見取り表」を記入し、それを見ながら書き込みます。

この欄には、「日本語の力見取り表」の子どもの様子を参考に、子どもの授業での様子を簡単な文で書くようにします。

日本語指導が必要な子どもたちのための「サポートシート① 個人記入用」  
 記入者[ ]  
 ……対象児童生徒……年……組 名前 ( )

	月	子どもの様子	必要だと思われる支援
聞くこと	4月	・一斉への指示や発問は、短いものなら聞いて理解している。	・大切な指示や発問などは、口で言うだけではなく、書いて示す。
	7月		
	12月		
	3月		
話すこと	4月		
	7月		
	12月		
	3月		
読むこと	4月		

この欄には、「日本語の力に応じた支援表」を参考に、授業で必要だと思われる支援や、すでに自分が工夫していることを書くようにします。

「サポート会議」に向けて、必要だと思われる支援をまとめます。

まとめた資料を活用して、サポート会議を開きます。サポートシートは、表計算ソフトで作成していますので、まとめる際には、記入したデータを集めてコンピュータ上で貼り付けていくと短時間でまとめることができます。また、どのような支援が必要なのかがひとめでわかるように、「日本語の力見取り表に応じた支援表」にある、理解支援(提示物・板書の工夫、指導者の話し方、学習形態の工夫)、表現支援(表現方法、モデルの工夫、学習形態の工夫)の支援別に分類しておきます。

※まとめる作業は、学校事情により、外国人教育主任であったり日本語教室担当者であったりします。少数在籍校の場合は、学級担任が行うことも考えられます。

(2) 支援を共有する「サポートシート②」

「サポートシート②」は、子どもに関わる全ての指導者が集まり、共通して採り入れる支援を決定する「サポート会議」で使用します。「サポート会議」の開催が難しい場合には、学年会や職員会議や校内研修会の一部の時間を活用して話し合う時間を設定します。

日本語指導が必要な子どもたちのための「サポートシート② サポート会議用」

対象児童生徒 年 組 名前 ( )

	月	採り入れる支援	支援の評価
聞くこと	4月		(7月記入)
	7月		(12月記入)
	12月		(3月記入)
	次年度に採り入れる支援 (3月記入) [ ]		
話すこと	4月		(7月記入)
	7月		(12月記入)
	12月		(3月記入)
	次年度に採り入れる支援 (3月記入) [ ]		
読むこと	4月		(7月記入)
	7月		(12月記入)
	12月		(3月記入)
	次年度に採り入れる支援 (3月記入) [ ]		
書くこと	4月		(7月記入)
	7月		(12月記入)
	12月		(3月記入)
	次年度に採り入れる支援 (3月記入) [ ]		
生活場面	4月		(7月記入)
	7月		(12月記入)
	12月		(3月記入)
	次年度に採り入れる支援 (3月記入) [ ]		

日本語指導が必要な子どもたちのための「サポートシート② サポート会議用」【記入例】

このシートは、サポート会議で決まった支援と、その支援に対する評価を書き込むシートです。

「サポート会議」のときに、このデータを、デジタルテレビやプロジェクタで拡大提示し、採り入れる支援をその場で書き込むと便利です。

日々の授業や子どもに接する場面で、実際に採り入れることが可能な支援を考えるようにします。

3月の会議では、次年度に採り入れる支援を決定して申し送ります。

日本語指導が必要な子どもたちのための「サポートシート② サポート会議用」

対象児童生徒 年 組 名前 ( )

	月	採り入れる支援	支援の評価
聞くこと	4月	・学習活動の中心となる発問や課題は、フラッシュカードや板書で示し、声に出して読む。 ・できるだけ二人組や少人数で友だちの話を聞く機会をつくる。	(7月記入)フラッシュカードに書いて提示したことで、必ず前を見て確認するようになった。 二人組を意識して採り入れた結果、隣の友だちの方を見てしっかりと聞くようになった。
	7月		(12月記入)
	12月		(3月記入)
	次年度に採り入れる支援 (3月記入) [ ]		
話すこと	4月	・できるだけ二人組や少人数で日本語を使って話す機会を設ける。	(7月記入)二人組を意識して採り入れた結果、わからないときには「わかりません。教えてください。」などというように、日本語で話すようになった。
	7月		(12月記入)
	12月		(3月記入)
	次年度に採り入れる支援 (3月記入) [ ]		

支援の評価欄には、実際に採り入れた支援について、どのような効果があったのか、または効果がなかったのは何かを記入するようにします。4月に採り入れることが決まった支援は、7月に評価をします。

サポート会議の場で、採り入れてきた支援の評価を話し合います。





支援の評価欄には、話し合った結果を書き込みます。新たに採り入れる支援は、この評価を参考にして考えていくようにします。

### (3)受入れ体制別の「サポートシート活用年間計画例」

教職員や日本語指導者も含めた全ての人々が、子どもの現状を共通理解し、授業で必要な支援を採り入れていくために、各学校の受入れ体制に応じた「サポートシート」の活用計画例を示しました。





#### サポートシート活用年間計画（例） 【少数在籍校用】

外国にルーツをもつ子どもたちの在籍が少ない学校では、学級担任が中心となって「サポートシート」を活用します。ただし、「サポートシート①」を記入する指導者が多く（中学校では各教科担任だけで最低9名になります）、全ての指導者の共通理解が必要である際には、学級担任だけに任せるのではなく、管理職や外国人教育主任の協力が大切です。

月	○学級担任，外国人教育主任	□教科指導担当，日本語指導担当
4月	<p>○「個人カード」「日本語の力見取り表」「サポートシート①」4月欄，「サポートシート②」に支援を記入</p> <p>※引継事項確認</p>	<p>□「日本語の力見取り表」「サポートシート①②」の確認</p>
		
7月	<p>○「サポートシート②」の評価欄，「サポートシート①」7月欄の記入を教科指導担当者や日本語指導担当者に依頼</p>	<p>□「サポートシート②」評価欄の記入 「サポートシート①」7月欄の記入</p>
		
12月	<p>○「サポートシート②」の評価欄，「サポートシート①」12月欄の記入を教科指導担当者や日本語指導担当者に依頼</p>	<p>□「サポートシート②」評価欄の記入 「サポートシート①」12月欄の記入</p>
		
3月	<p>○「サポートシート②」の評価欄，「サポートシート①」3月欄の記入を教科指導担当者や日本語指導担当者に依頼</p> <p>○採り入れる支援を決定し「サポートシート②」に記入</p> <p>○「個人カード」「日本語の力見取り表」「サポートシート」のまとめと引き継ぎ</p>	<p>□「サポートシート②」評価欄の記入 「サポートシート①」3月欄の記入</p>
		

## サポートシート活用年間計画（例） 【校内委員会設置校用】

外国にルーツをもつ子どもたちの教育に関する、校内委員会が設置されている学校では、年間計画の中に校内研修会を組み込むことが可能になります。この研修会を生かして、対象児童生徒に関わる全ての指導者が集まり、支援を話し合い、共有する「サポート会議」を設定します。

月	●校内委員会の取組 ○サポート会議	□学級担任，教科指導担当者
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●年間計画の提案</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>●「サポートシート①」4月欄の集約</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「個人カード」「日本語の力見取り表」「サポートシート①」4月欄の記入</li> <li>※引継事項確認</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○校内研修会 <b>サポート会議 1</b></li> <li>・在籍児童生徒の現状の共通理解</li> <li>・「サポートシート①」の4月欄の集約を基に採り入れる支援を決定</li> <li>●●●●●▶ 「サポートシート②」に記入</li> </ul>	
7月	 <ul style="list-style-type: none"> <li>●「サポートシート①」7月欄の集約</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「日本語の力見取り表」「サポートシート①」7月欄の記入</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○夏季校内研修会 <b>サポート会議 2</b></li> <li>・採り入れた支援の評価</li> <li>・「サポートシート①」の7月欄の集約を基に採り入れる支援を決定</li> <li>●●●●●▶ 「サポートシート②」に記入</li> </ul>	
12月	 <ul style="list-style-type: none"> <li>●「サポートシート①」12月欄の集約</li> <li>○<b>サポート会議 3</b>（職員会議等の利用）</li> <li>・採り入れた支援の評価</li> <li>・「サポートシート①」の12月欄の集約を基に採り入れる支援を決定</li> <li>●●●●●▶ 「サポートシート②」に記入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「サポートシート①」12月欄の記入</li> </ul>
3月	 <ul style="list-style-type: none"> <li>●「サポートシート①」3月欄の集約</li> <li>○校内研修会 <b>サポート会議 4</b></li> <li>・採り入れた支援の評価</li> <li>・「サポートシート①」の3月欄の集約を基に次年度に採り入れる支援を決定</li> <li>●●●●●▶ 「サポートシート②」に記入</li> <li>●「個人カード」「日本語の力見取り表」「サポートシート」の引き継ぎ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□「個人カード」「日本語の力見取り表」「サポートシート①」3月欄の記入</li> </ul>

### サポートシート活用年間計画（例）

### 【日本語教室設置校用】

日本語教室設置校では、日本語教室担当者が中心となって「サポートシート」を活用します。「日本語の力見取り表」「サポートシート①」については、対象児童生徒に関わる全ての指導者が記入し、それを日本語教室担当者が集約します。その後、学年会の時間などを活用し、日本語教室担当者と各学級担任や教科担任が支援について話し合います。ただし、日本語教室担当者がこのような役割を担うためには、管理職や外国人教育主任の協力が大切です。

	○日本語教室担当者，外国人教育主任	□学級担任，教科指導担当者
4月	<p>○「サポートシート①」4月欄を集約し、授業で採り入れる支援を決定</p> <p>○「サポートシート②」に記入</p>	<p>□「個人カード」「日本語の力見取り表」「サポートシート①」4月欄の記入 ※引継事項確認</p>
<p>↓</p> <p>学年会等で各指導者と相談</p> <p>↓</p>		
7月	<p>○「サポートシート①」7月欄と「サポートシート②」の評価欄を集約し、授業で採り入れる支援を決定</p> <p>○「サポートシート②」に記入</p>	<p>□「サポートシート②」評価欄記入 □「日本語の力見取り表」「サポートシート①」7月欄の記入</p>
<p>↓</p> <p>学年会等で各指導者と相談</p> <p>↓</p>		
12月	<p>○「サポートシート①」12月欄と「サポートシート②」の評価欄を集約し、授業で採り入れる支援を決定</p> <p>○「サポートシート②」に記入</p>	<p>□「サポートシート②」評価欄記入 □「サポートシート①」12月欄記入</p>
<p>↓</p> <p>学年会等で各指導者と相談</p> <p>↓</p>		
3月	<p>○「サポートシート①」3月欄と「サポートシート②」の評価欄を集約し、次年度に授業で採り入れる支援を決定</p> <p>○「サポートシート②」に記入</p> <p>○「個人カード」「日本語の力見取り表」「サポートシート」の引き継ぎ</p>	<p>□「サポートシート②」評価欄記入 □「個人カード」「日本語の力見取り表」「サポートシート①」3月欄の記入</p>
<p>↓</p> <p>学年会等で各指導者と相談</p>		

## 5. 人権教育学習指導案「外国の学校へ行こう！」

—あたたかく受け入れ、互いに認め合う学級づくりをめざして—

外国にルーツをもつ子どもたちが、自分がつながる国について紹介したり、母国の学校生活について紹介したりすることで、お互いの違いをよさとして認め合うという目的の授業です。また、「言葉がわからない状況」を体験することで、対象児童生徒の来日後の状況を認識し、ともにがんばろう

単元名 「外国の学校へ行こう！」

単元目標 ○「帰国・外国人児童生徒」への理解を深めることで人権意識を高める。

○母国の様子や日本に来てからの自分について発信し、周りから認められることで自己肯定感を高める。

指導計画（全2時間）

	学習のめあて
第1時	対象児童生徒がルーツをもつ国の言葉や生活の様子について知り、日本の言葉や生活の様子と比べることで、それぞれの違いや良さを認めようとする態度を養う。
第2時	対象児童生徒の母語を使った授業を体験することを通して、お互いの気持ちを理解し、ともに成長していこうとする心情を育てる。

### ～実践についての留意点～

#### 【時数の扱いについて】

・「外国の学校に行ってみよう」という2時間単元です。1時間目は、「日本語指導が必要な児童生徒」がルーツをもつ国の様子を知ること、違いや良さを認めようとする態度を養うことがねらいです。2時間目は、言葉がわからない状況の体験を通して、「日本語指導が必要な児童生徒」への理解が深まることをねらいとしています。この2時間については、学級活動や総合的な学習の時間など、学校の実情に合わせて時間をとるように考えてください。

#### 【授業の了承について】

・実践に当たっては、対象児童生徒本人と保護者の了承が必要になります。説明の際に通訳が必要である場合は、通訳ボランティアを手配します。

#### 【ゲストティーチャーの手配について】

・第2時の対象児童生徒の母語での授業は、ゲストティーチャーを迎えて実施します。ゲストティーチャーの手配は、京都市の「多文化学習推進プログラム」の事業プログラムを利用する方法が考えられます。このプログラムの申請などについては、学校指導課人権教育担当が窓口になっています。

#### 【授業の準備について】

・母国での生活紹介や、日本に来てからのことを伝える場面については、事前に対象児童生徒に聞き取りを行い、発表できるように準備します。聞き取りの際に通訳が必要であれば、通訳ボランティアの手配をします。発表準備については、日本語指導担当者の協力を仰ぐことも可能です。



■第1時のねらい

- ・対象児童生徒がルーツをもつ国の言葉や生活の様子について知り、日本の言葉や生活の様子と比べることで、それぞれの違いや良さを認めようとする態度を養う。
- ・母語や母国について自分の言葉で伝える機会を通して、日本語を話すことへの自信をもつことができるようにする。

■第1時の展開

<p>学習活動 ○主な発問</p>	<p>・予想される子どもの反応 ※資料</p>	<p>・留意点 ●対象児童生徒への支援</p>
<p>1. 対象児童生徒がルーツをもつ国について知る。 ○今日は、ある国について勉強します。どこの国のことでしょうか。 (写真や資料を提示)</p> <p>2. 対象児童生徒が母国の生活の様子や学校の日を紹介する。 ○～さんが、自分の国のことや通っていた学校の様子をみなさんに紹介します。</p> <p>3. 質問や感想を出し合う。 ○もっと聞いてみたいことはありますか。紹介を聞いた感想も聞かせてください。</p> <p>4. 学習を振り返る。 ○今日の学習で感じたことや考えたことをワークシートに書きましょう。</p>	<p>・あの国旗はどこのものかな。 ※対象児童生徒がルーツをもつ国の国旗や民族衣装、食べ物、有名な遺跡、動物などの写真などを示す。 ※提示用の世界地図</p> <p>・早く聞きたいな。 ・日本の学校とぜんぜん違うのかな。 ・給食がないんだな。 ・同じ勉強もあるな。 ・朝が早くて大変だな。 ※対象児童生徒の紹介内容を提示する資料を示す。(例：対象児童生徒が通学していた学校の時間割や一日の予定表など)</p> <p>・宿題はあったのかな。 ・友だちとはどんなことをして遊ぶのかな。 ・テストはあるのかな。</p> <p>・日本と似ているところや違うところがあったな。 ・挨拶の言葉以外の言葉も教えてほしいな。 ・日本語で上手に紹介できていたな。 ・日本語で話せてよかった。みんなに聞いてもらってうれしい。 ※振り返り用のワークシート</p>	<p>●対象児童生徒への支援</p> <p>・全員がはっきりと見える大きさの資料や地図を用意する。</p> <p>●事前に聞き取りをして、提示物の準備や発表の練習をしておくことにより、自信をもって母国の様子を紹介できるようにする。</p> <p>●日本語の力に合わせて紹介方法を考えることにより、わかりやすく紹介できるようにする。(自分で紹介する、担任の質問に答えるなど)</p> <p>・日本とよく似ていることと、まったく違うことがあることに気付くことができるようにする。</p> <p>●日本語の力に合わせて通訳を手配しておくことにより、安心して受け答えできるようにする。</p> <p>・感想は板書する。</p> <p>・日本と比べてどうだったか、どのように感じたかという視点で振り返る。</p> <p>・板書を見て振り返りができるようにする。</p> <p>●紹介してみてどうであったかという視点を示すことにより、振り返ることができるようにする。</p>

■第2時のねらい

- ・対象児童の母語を使った授業を体験することを通して、お互いの気持ちを理解し、ともに成長していこうとする心情を育てる。
- ・母語も日本語も身につけようとしている自分に誇りをもつ。

■第2時の展開

学習活動 ○主な発問	・予想される子どもの反応 ※資料	・留意点 ●対象児童生徒への支援
1. 前時の学習内容を思い出す。 2. 日本語以外の言語で簡単な算数（数学）の授業を受ける。 ○今日はこれから～さんの通っていた学校に行つて授業を受けてみましょう。	※提示用の世界地図  ・みんなで一緒にいくのかな。 ※違う国に行く場面設定で使用する、写真、効果音、資料など ・何を言ってるのかわからないよ。 ・早く終わらないかな。 ・数字を書いたから算数なのかな。 ・～さんはわかっていますよ。	・第1時の内容が想起できるように、教室掲示等を工夫する。 ・違う国の学校に行くということがイメージできる場面設定をする。 例：飛行機やその国の写真を映し出す。ゲストティーチャーとの交代場面を工夫する、など ●対象児童生徒に、事前に授業内容を説明することにより、受け答えすることができるようにする。
<b>ゲストティーチャーによる母語での授業</b>		
3. 授業を受けて考えたことや感想を出し合う。 ○授業を受けて感じたことや考えたことはありますか。  4. 対象児童生徒のおもいを知る。 ○～さんは日本に來てから、どんなことを感じたり考えたりしたのでしょうか。  5. 学習を振り返る。 ○今日の学習で思ったことや考えたことを書きましょう。	・何を言っているのかわからないから困った。 ・不安だった。 ・～さんは全部答えていて、すごいなと思った。 ・言葉がわからなくて嫌だったろうな。 ・日本語で上手に発表しているな。 ※対象児童生徒が書いた作文のプリント  ・～さんは1年間でここまでがんばってきてすごいな。自分もがんばろう。 ・日本語がわからないときに、もっとゆっくり話しかければよかったな。 ・もっと、～さんの国のことを教えてもらいたいな。 ・私も、日本のことでわからないことをもっと友だちに聞いていこう。 ※振り返り用のワークシート	・ゲストティーチャーの授業は10分程度であったことを確認する。 ・授業の中で受け答えしていた対象児童生徒の様子にもふれる。 ・感想や考えたことを板書する。  ●事前に母語での作文や聞き取りを通して作文を準備し、練習しておくことにより、自信をもって表現することができるようにする。 ・作文のプリントは発表が終わってから配布するようにする。 ・板書や、対象児童の作文のプリントを見ることで、学習内容を振り返ることができるようにする。 ●学年全員の前で発表した自分の気持ちや、板書で友だちの感想を見直すことにより、学習を振り返ることができるようにする。

## 6. 外国にルーツをもつ子どもたちの進路保障について

外国にルーツをもつ子どもたちやその保護者は、日本における高等学校入学試験制度について正確な情報を得ることが難しい状況です。加えて、日本語が十分に習得できていないことから、将来展望がもちにくい場合も多いのではないのでしょうか。そのような子どもたちや保護者に、高等学校入学試験制度に関する特別入試や特別措置、そして、費用面を助ける修学資金や奨学金の制度について正確な情報を伝えることが、将来展望をもつことができるための第一歩であると考えます。

京都府の公立高等学校入試においては、従来からの「海外勤務者帰国子女特別入学者選抜」「中国帰国孤児子女特別選抜」に加えて、平成24年度入学選抜より、外国人生徒等について学力検査受検に関する特例措置がなされるようになりました。また、いくつかの私立高等学校の入学試験においても、帰国・外国人生徒に対する入学試験制度があります。

本章では、高等学校入学試験に関する特別措置や入学試験制度について、そして、主な修学支援制度や奨学金制度について紹介します。ただし、私立高等学校の入試制度につきましては、平成25年度募集の情報です。最新の情報は各学校へお問い合わせください。

「日本語ができないから・・・」「経済的に苦しいから・・・。」という理由で、高等学校進学を諦めてしまう子どもが、一人でも少なくなることを願っています。

### (1) 京都市教育委員会主催「多言語進路ガイダンス」

平成24年度より、京都市教育委員会主催の「多言語進路ガイダンス」が、京都市総合教育センターで開催されるようになりました。ガイダンスの内容は、次のようになっています。

- ① 京都府の公立高等学校入試制度について説明
- ② 私立高等学校について説明
- ③ 外国にルーツをもつ先輩の話聞く時間
- ④ 言語別のグループ相談会 **※全ての内容について各言語による通訳有り**

このガイダンスは、子どもたちや保護者が、高等学校進学に関する正確な情報を母語で得ることができる場です。また、同じような立場で頑張っている友だちが、京都市にはたくさんいることに気付く場もあります。更に、先輩の話聞くことにより、進路に前向きになる気持ちをもつことにもつながると考えています。平成25年度も開催が予定されていますので、多くの方の参加できるように対象の方への周知が望まれます。

※「多言語進路ガイダンス」についての問い合わせ先は、京都市教育委員会 学校指導課 人権教育担当係です。

### (2) 京都府高等学校入学選抜における「特別入学者選抜」や「学力検査受検に関する特別措置」

※平成25年度入学者選抜要項より抜粋

#### 【海外勤務者帰国子女特別入学者選抜】

##### ① 出願資格について

次の条件を満たす者が出願できる。

- i) 海外勤務者（日本国籍を有する者で、海外に所在する機関、事業所等に勤務するか又は海外において研究・研修を行うことを目的として日本国を出国し、海外に在留していたもの又は現在なお

在留しているもの)の子女であること。

- ii) 外国において引き続き1年以上在留していたこと。
- iii) 平成22年2月1日以降に帰国したこと。

②実施高等学校・学科等について

京都府立鳥羽高等学校	全日制	普通科第I類	募集定員…5名以内
京都府立西舞鶴高等学校	全日制	普通科	募集定員…5名以内

③学力検査等について

- i) 学力検査実施教科 国語・数学・英語
- ii) 面接 志願した者全員に対して面接を行う

【中国帰国孤児子女特別入学者選抜】

①出願資格について

次の条件を満たす者が出願できる。

- i) 終戦前(昭和20年9月2日以前をいう。)から引き続き中国に居住していた者(これらの者を両親として終戦後中国において出生した者を含む。)で、終戦後初めて永住の目的をもって帰国した者の子女であること。
- ii) 帰国後小学校4年生以上の学年に入学した者であること。

②実施高等学校・学科等について

京都府立鳥羽高等学校	全日制	普通科第I類	募集定員…5名以内
	定時制	普通科	募集定員…5名以内
京都府立西舞鶴高等学校	全日制	普通科	募集定員…5名以内
京都府立東舞鶴高等学校浮島分校	定時制	普通科	募集定員…5名以内

③学力検査等について

- i) 学力検査実施教科 国語・数学・英語(国語の問題に振り仮名を付す。)
- ii) 面接 志願した者全員に対して面接を行う。

【京都府公立高等学校 学力検査受検に関する特別措置】

出願を予定する外国人生徒等のうち、平成22年2月1日以降に来日し、外国での在学期間が継続して1年以上の者で、学力検査実施上配慮を必要とすると考えられる場合においては、中学校長が高等学校長にあらかじめ申し出る。

特別措置の内容は以下の2点

- i) 学力検査問題に振り仮名を付す。
- ii) 各教科10分間を限度として、検査時間を延長する。

### (3) 帰国・外国人生徒に関する、特別入学試験制度がある私立高等学校

私立高等学校の中には、国際（帰国生徒・外国人子女）入学試験や、帰国生徒入試を実施している学校があります。受験資格や試験の内容は、各学校により様々です。例えば、作文と個人面接による選考の学校もあれば、国語、数学、英語の教科試験を実施している学校もあります。「どの学校に、どのような入学試験制度があるのか」については、各中学校の「進路指導担当の先生」がよく御存知ですので、ぜひ一度尋ねてみてください。

私立高等学校は、学費が高く、通学は難しいという印象がもたれがちですが、現在は、(5)でも紹介しているような、「京都府内の私立高等学校に在籍する生徒への修学支援」制度もあります。その制度も含めて、学校の先生に相談してみましょう。

来日してからの期間が短く、日本語習得が不十分な生徒にとって、進路選択の幅が広がる可能性があると考えています。

### (4) 進路説明会や、希望する学校の説明会、学校公開などに関する通訳ボランティア活用

本市の「通訳ボランティア派遣制度」については、8ページで紹介したとおりです。この派遣制度を、進路関係についても、最大限に活用していきましょう。対象生徒の日本語に問題が感じられない場合においても、保護者については母語で理解する機会を設定することが重要です。

各中学校における進路説明会だけでなく、希望する高等学校等における学校説明会や学校公開などについても、子どもと保護者が揃って参加するようにうながし、通訳ボランティアを申請します。この場合は、校外での通訳になりますので、申請の際にその旨を学校指導課の担当者に伝えるようにしましょう。高等学校の入試制度だけでなく、日本の高等学校の様子や学習、学校生活について知る機会は、外国にルーツをもつ子どもの保護者にとっては、大変貴重な機会です。

日本語が理解しにくいことから、十分な情報が得られないまま、子どもの進路が決定してしまったということがないように配慮することが望まれます。

### (5) 奨学金や修学資金に関する制度

高等学校等の入学やそれ以降の学校生活に対する、修学支援金や奨学金の制度について知ることで、安心して進路を決定することができる場合もあります。主な制度を以下に挙げました。それぞれの制度の詳細については、各中学校の先生や担当機関に問い合わせてください。

- 高等学校等修学支援金（国制度）
- 京都府内の私立高等学校に在籍する生徒への修学支援
  
- 京都府高等学校等修学金貸与制度
- 京都府高等学校等修学支度金貸与制度
  
- 京都府高等学校奨学金 ※給付型 生活保護世帯、非課税の母子・父子家庭などが対象
- 公益財団法人京都新聞社福祉事業団 京都新聞「愛の奨学金」 ※給付型

## 7. 外国にルーツをもつ子どもたちの教育 Q&A

**Q 1 :** 日本語が理解しにくい子どもの場合は、日本語がわかるようにならなければ、授業の理解は難しいのではないのですか？

**A 1 :** 新たな言語を習得するには、日常的な会話でも早くて1年といわれています。その間、毎日何もわからないまま過ごすことは、取り返しの難しい遅れを残すことになります。

日本語がわからなくても、視覚的に理解をうながす工夫や、二人組や少人数での学習形態の工夫などを採り入れることにより、子どもたちは学習活動に入ることができます。「日本語がわからなくても、みんなと授業を受けるのがうれしい。」という思いをもつことが、子どもたちの日本語習得への意欲にもつながります。

**Q 2 :** 日本語がある程度わかるようになるまで、みんなと一緒に勉強するより、個別に日本語の学習をした方がよいのではないですか？

**A 2 :** 日本語の教科書などを使って、正しい日本語を系統立てて学ぶ時間は大切です。もし、抽出授業が可能な環境であるなら、毎日1時間程度、別の部屋で日本語を学べるとよいでしょう。しかし、同じクラスの子どもたちと仲良くなり、学び合う中で吸収していく事柄も多いです。子どもたちの一番の願いは、クラスのみならず一緒に楽しく学習することではないでしょうか。

**Q 3 :** その子どもの母語ができる通訳に来てもらって、授業の通訳をしてもらうことが一番よいのではないのですか？

**A 3 :** 言葉がわからないことから、子どもたちは様々な悩みや困りを抱えます。また、日本の学校システムがわからないため、戸惑うことも多いと考えられます。これは、保護者も同様です。このようなときに、母語で話せる場を確保することは大切です。ただ、授業の通訳となると話は別です。

中学校年齢での来日で、母語での教科内容理解が可能な場合には、別室で母語による教科支援は有効です。しかし、授業中、横について助けるということは、母語に依存してしまい、日本語を聞かなくなってしまう可能性があります。

初登校日には、通訳がついて、学校生活のいろいろな点を説明することは大切ですが、それ以外には、児童や保護者がほっとできる時間や、別室で教科学習を行う時間に来てもらうようにします。

**Q 4 :** 日本語でコミュニケーションがとることができないのに、学校の教員ができることはありますか？

**A 4 :** 言葉が通じなくても、できることはたくさんあります。「あなたが来てくれてうれしい。」ということが伝わるようにすることが大切です。学級担任だけでなく、クラス全員がこのような雰囲気迎えたいものです。

また、身ぶり手ぶりや簡単な絵を描いて示すなどの、言葉を使わないコミュニケーションも可能です。更に、子どもの母国や母語に対して興味をもち、知りたいという気持ちを伝えることも大切です。辞書を準備すると、子どもは大変喜ぶでしょう。

**Q 5 :** 学校から配布したプリントや週予定を母語に訳してもらっているのですが、忘れ物が多かったり、必要な書類が提出されなかったりします。

**A 5 :** 母語で訳しても伝わらないことは多くあります。例えば、遠足の際に使う「敷物」などは、実物を見せて、なぜ必要なのかを説明しないと理解できないでしょう。経験がないことは母語を介しても理解できないのです。日本の学校では当たり前のことが、外国から来た子どもや保護者にとっては、決して当たり前ではないということです。持ち物は、できるだけ実物や写真で示す、重要なプリントの場合は、直接会い、通訳を介して説明するなどの手だてが必要です。

Q6： 全ての授業で共通した支援を採り入れることは、難しいと思うのですが？

A6： 日本語の四つの技能である「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」それぞれの力は、どの教科等の授業においても必要な力です。これらに関する適切な支援は、各教科等の授業に共通する支援になると考えます。例えば、「読むこと」に関することで、「重要な言葉にはふりがなを打つ」支援は、全ての授業で採り入れることが可能です。

Q7： 中学校は教科担任制であるので、その全員が集まって話し合うことは人数や時間的に難しいのではないのでしょうか？

A7： 学年会と兼ねたり、職員会議の後に設定したりするなどの工夫により、全員が集まれる時間を確保することはできるのではないのでしょうか。また、いつも会議のような時間を設定する必要はありません。例えば、「サポートシート①」をデータに記入し、各指導者が時間があるときに閲覧するという交流方法も考えられます。特に、週に数時間しか学校に来ることがない日本語指導者と交流することには、工夫が必要です。

Q8： 「個人カード」「日本語の力見取り表」「サポートシート」などは、だれがどのように保管しておくのがよいのでしょうか？

A8： これらの資料は、小・中学校9年間継続して記入し、毎年引き継いでいくことが大切です。管理としては、データとして入力し保存する方法や、印刷したものに手書きし、クリアファイルに入れて保管庫などに保管する方法などいろいろな方法が考えられます。学校事情や在籍人数に応じて、だれもがいつでも見ることが出来る形で保管しておきたいものです。

Q9： 「日本語の力見取り表」は年間3回、「サポートシート」は年間4回記入することになっていますが、記入回数を減らすことは可能ですか？

A9： 各学校で使いやすいように活用を考えてください。これらの資料は、記入を続けていくことが一番大切です。ただ、年度途中で様子を確認することと、年度末に引き継ぐことは必ずしておくようにします。

Q10： 外国にルーツをもつ子どもたちの教育について、校内で研修会を開きたいのですが、どのような内容で行えばよいのかがわかりません。

A10： 平成24年6月に発刊された、『外国にルーツをもつ子どもたち（日本語指導が必要な子どもたち）の教育』に関する、校内研修の進め方例・研修内容例」という冊子があります。この中に具体的な研修内容や講師が必要な場合の問合せ先などを掲載しています。各学校に1冊配布されていますので、御覧になってください。



## 8. 外国にルーツをもつ子どもたちの教育に関する情報を得たいとき ※母語支援も含む

### (1) 外国人のための相談・情報提供

※詳しくは各団体のホームページを御覧ください。

団体名	電話番号	内容
(財)京都市 国際交流協会	075 752-3511 ※月曜日休館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多言語のホームページ有</li> <li>・日本語教室の開催</li> <li>・行政電話通訳 075-752-1166</li> <li style="padding-left: 20px;">英語 火・木 10:00~16:00</li> <li style="padding-left: 20px;">中国語 水・金 10:00~16:00</li> <li>・生活相談 相談時間 9:30~20:30</li> </ul> (英語, 韓国・朝鮮語, 中国語, ドイツ語, スペイン語, フランス語)
(財)京都府 国際センター	075 342-5000	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多言語のホームページ有</li> <li>・日本語教室の開催</li> <li>・生活相談 相談時間 13:00~17:00</li> <li>専用電話075-342-0088</li> <li style="padding-left: 20px;">FAX075-342-5050</li> <li>月曜日 英語</li> <li>水曜日 スペイン語, ポルトガル語</li> <li>木曜日 タガログ語</li> <li>金曜日 中国語</li> <li>土曜日 韓国・朝鮮語</li> </ul>
京都 YWCA APT (アパート)	075 431-0351	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教室の開催</li> <li>・電話相談 075-451-6522</li> <li>相談日・時間</li> <li>月曜日 13:00~16:00 タイ語, タガログ語</li> <li style="padding-left: 40px;">中国語, 英語</li> <li>木曜日 15:00~18:00 月曜日と同じ</li> </ul>
伏見青少年活動 センター	075 611-4910	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教室</li> <li>・外国人青少年交流会活動</li> </ul>

### (2) 日本語指導に関する書籍や教材の閲覧や貸し出し

京都市 カリキュラム開 発支援センター	075 371-2341	<ul style="list-style-type: none"> <li>・京都市立学校の教職員やボランティアへの貸し出し, コピー等</li> <li>開室時間 月~金 9:00~21:00</li> <li style="padding-left: 40px;">土 9:00~17:00</li> <li>※第2, 第4木曜日 9:00~17:30</li> <li>※長期休業日や年末年始の開室については, お問合せください。</li> </ul>
---------------------------	-----------------	--



**(3) 日本語指導に関する教材、翻訳教材** ※各教材の詳細はホームページで確認してください。

教材名・サイト名	団体名	内容
マルチメディア 「にほんごをま なぼう」	日本語指導教材研究会 (文部科学省委託)	学校生活で使われる日本語を、コンピュータで絵を動かしながら、音声付で勉強することができる。 (ポルトガル語、スペイン語、中国語、英語、韓国・朝鮮語、ベトナム語、カンボジア語)
KIDS WEBJAPAN	外務省	日本の文化や学校などについて、多言語で説明している。 (スペイン語、韓国・朝鮮語、フランス語、ドイツ語、オランダ語、フィンランド語、スウェーデン語、アラビア語)
かすたねっと	文部科学省	ウェブ上で公開されている多言語教材や多言語学校関係文書の検索サイト。 日本語指導に関する教材も検索できる。
デジタル絵本サイト	国際デジタル絵本学会	世界の民話を中国語、韓国・朝鮮語、英語、ドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語、インドネシア語、ノルウェー語、スウェーデン語、アミ語訳付で読める絵本サイト。日本の民話も各国語で読める。

**(4) 外国にルーツをもつ子どもたち（日本語指導が必要な子どもたち）の教育について、更に詳しく書かれている冊子**

○『外国にルーツをもつ子どもたち（日本語指導が必要な子どもたち）の教育』に関する、**校内研修の進め方例・研修内容例**

→校内研修会の内容について七つの例を挙げ、ねらい、実施の方法、準備物、研修会の流れを具体的に示した冊子です。「外国にルーツをもつ子どもたちの現状と課題〈概要編〉」のプレゼンテーションとその原稿も掲載されており、各学校の人権教育主任や外国人教育主任が活用できるようになっています。※プレゼンテーションの所要時間は 20 分、プレゼンテーションは「京都市総合教育センター研究課」のウェブサイトに掲載されています。<http://www.edu.city.kyoto.jp/sogokyoiku>

○「日本語指導が必要な子どもたちのための

**日本語の力、生活経験に応じた授業づくりの考え方・支援例集**

→20 ページに挙げた具体的な支援例について、授業での実践例を写真や資料とともに紹介しています。また、すぐに使える教材として「ひらがな・カタカナ表記一覧カード」や「感想を言ったり書いたりするときに見える言葉カード」を掲載しています。

※これらの冊子は、平成 24 年 6 月に京都市教育委員会学校指導課より発行され、京都市立小・中学校に 1 冊ずつ配布されています。また、京都市総合教育センター研究課のウェブサイトからダウンロードも可能です。